

## アルツハイマー病患者に対する塩酸ドネペジル治療支援 ～介護施設における活動を中心に～

○相良文恵, 立川靖之, 渡辺悠子, 尾崎 覚, 三宅宏昭  
株式会社 クリエイトエス・ディー

認知症は正常に発達した認知機能が著しく低下し社会生活や日常生活に障害をきたす疾病である。日本では高齢化社会の到来とともに認知症患者が増加しその数は 190 万人に達するといわれている。これらの患者の中で約半数を占めているのがアルツハイマー病と呼ばれる進行性の脳疾患であり、年齢依存的に発病頻度が増加することで知られている。症状は物忘れから始まり、学習・記憶障害が徐々に進行していくと、やがて判断力・理解力が低下し妄想や徘徊が現れるようになる。

アルツハイマー病の病理学的変化は学習・記憶形成に重要な部位である大脳皮質や海馬において神経原線維変化と老人斑の出現が認められることである。老人斑の主成分である  $\beta$ -アミロイドタンパクは神経細胞に対して毒性を示すことが報告されているため、老人斑における  $\beta$ -アミロイドタンパクの蓄積が神経細胞死に関与していることが想定されている。また、アルツハイマー病ではマイネルト核のコリン作動性神経が減少しており、二次的に大脳皮質のコリン系神経伝達が障害される。このことから、アルツハイマー病の症状にコリン作動性神経系が少なくとも一部関与していると考えられている。

塩酸ドネペジルはコリンエステラーゼを可逆的に阻害しアセチルコリン量を増加させることにより脳内コリン作動性神経系を賦活させる。塩酸ドネペジルの治療を受けているアルツハイマー病患者において記憶力および思考力の明らかな改善が認められている。また、塩酸ドネペジルは臨床過程の早い段階で用いると効果が高いため、アルツハイマー病患者の早期診断と適切な薬物治療が症状進行の抑制に重要であると考えられる。

介護保険創設以降、介護施設に入居するアルツハイマー病患者は年々増加している。介護施設においてアルツハイマー病患者に塩酸ドネペジルを適切に投与し、薬物治療効果を最大限に得るためには薬剤師だけの力で成し遂げることは困難である。そのため、薬剤師が患者・医師・看護師・施設スタッフに対して積極的にコミュニケーションをとり、全ての関係者がそれぞれの役割を発揮できる環境を整えていくことが大切である。そこで本シンポジウムでは、アルツハイマー病患者に対する塩酸ドネペジル治療支援と介護施設における薬剤師の取り組みについて報告する。